

## 日本の「ニューフロンティア」 ～22世紀を見据えた日本の「変革」とは

日本は今、「ニューフロンティア」に足を踏み入れんとしている。人口減少と人生100年という「ニューフロンティア」の時代において、22世紀を見据え、「変革」し続ける。

日本の「ニューフロンティア」のキーワードは、「国際社会に対する関与」と「変革」。

- 世界ではルールに基づく自由主義の秩序が危険に瀕している。多くの国々で、政治指導者たちは自国内で著しい分断や対立に直面している中、日本が変化する世界で日本が生き残るためには、「国際社会に対する関与」と「変革」がポイントである。
- 「国際社会に対する関与」とは、①アメリカとの協力を深めること。②他の民主主義国と連携すること。③日本がより大きな役割を果たすことができる分野を特定し、その役割を果たすこと。
- 日本の果たすべき役割とは、人口減少、高齢化という日本特有の、かつ、今後多くの国々が直面する課題を「変革」のチャンスに転換する先事例になること。
- 人口減少にもかかわらず、日本のマーケットは自由貿易圏の拡大により大きくなっている。TPP11や日EU・EPAの発効にとどまらず、他国をTPPに招くことや、アメリカとの新しい貿易協定、RCEP協定の交渉を進めることで、市場を拡大する試みが進行中。
- 農業でも、「100億人（将来の世界の総人口）の市場に目を向ける」という掛け声の下、「変革」とイノベーションは進行中。2019年までに1兆円という輸出目標の達成に向かって順調に成長している。
- 厚労部会長として、人生100年時代に向けた政策立案と変革に取り組んでいる。デジタル化の到来によって、AIやロボティクスなどの革新的なテクノロジーが活用できる時代になり、これまでの人口減少期にはなかった武器が日本に新たなチャンスをもたらす。
- 20年間学び、40年間働き、20年間の老後から、より長く働き続ける時代に移行する。高齢化によってライフスタイルの「変革」、働き方の「変革」が求められている。
- 日本とアメリカの双方向の交流は一層重要になる。22世紀を見据えた日本社会の「変革」と更なる「国際社会に対する関与」の実現の成否は若い世代にかかっている。日米の二国間のみならず、若い世代の海外留学、国際社会で切磋琢磨する経験は、日本と日米同盟の将来にとって重要なポイントになる。
- 人口減少と人生100年時代は、日本の「ニューフロンティア」になる。ここで鍵となるのは、「ニューフロンティア」という言葉。ケネディ大統領が「ニューフロンティア」という言葉を用いてアメリカ国民を鼓舞したように、日本と日本人の底力を最大限に引き出すことで、「ニューフロンティア」を切り拓いていくために必要な改革を実行し、また自らも全力を尽くす覚悟。

以上